

青木平区

福祉家事援助ごみ出し支援事業

シルバー人材センターが新しくごみ出し支援事業を
令和5年5月から始めます

対象：青木平区民（10人～15人でスタートします）

内容

- ・毎週水曜日、シルバー人材センターが朝7時に家の前からごみを回収し、第1集積所へ捨てます。
 - ・対象のごみ：「燃えるごみ」のみ。
 - ・燃えるごみは、前日の火曜日から水曜日の朝7:00までに、分別し指定のごみ袋に集め、蓋付きポリバケツ（容量：45リットル）に入れて下さい。
 - ・ポリバケツは家の敷地に置いてください。
初回のみ回収場所を確認します。
- 蓋付きポリバケツの用意が難しい人は青木平区で購入して費用を請求します。

料金

月一律880円

上半期：5月～9月分 4,400円

下半期：10月～3月分 5,280円

集金について：

上半期：4月15日（土）10:00～12:00

下半期：10月14日（土）10:00～12:00

区民館で事務局が集金します

※都合で当日、納入できないときは事務局自宅まで納入してください

事務局責任者 濱田新一 TEL 090-8551-9269

（注）

蓋付きポリバケツを御希望の方は初回集金時に別途お支払いください。

◇代金：1,982円

注意点：

- ・月額料金で集金するため、月の中でごみを出さない週があっても、料金に変わりはありません
- ・事前に半年分集金した後、途中で解約になった場合、事務局で返金対応が可能です。この場合も月額単位での返金とします
- ・2週連続で連絡なくごみが出ていない世帯は安否確認のためにシルバー人材センターから事務局へ報告をします

お問い合わせ

青木平区

公益社団法人シルバー人材センター

TEL: 0544-23-4008



岳南朝日新聞社
〒418-0033
富士宮市野中東町46-1
代表 (0544) 28-0200
FAX (0544) 28-0218
編集 (0544) 28-0234
営業 (0544) 28-0220
月977円 1部60円

お客様からの
『信頼と満足』を
頂ける品質の
ご提供

(株)大石組

本社
富士宮市弓沢町635
☎(0544)26-0010(代)

購読申し込み先

- 吉原(0545)
植草新聞店 ☎(52)0370 安倍新聞店 ☎(71)3327
- 廣岡(0545)
鈴木新聞店 ☎(52)5503 中野新聞店 ☎(71)8156
- 富士宮(0544)
星野新聞店 ☎(52)0376 鈴木新聞店 ☎(71)2647
- 富士(0545)
中野新聞店 ☎(23)3333 雨森新聞店 ☎(61)5049 石井新聞店 ☎(81)1333
- 静岡(0544)
ツタウエル ☎(26)1100 田畑新聞店 ☎(61)0011 松野新聞販売所 ☎(85)2093
- 中野新聞店 ☎(23)3333 中西新聞店 ☎(28)1133 星野新聞堂 ☎(61)0275

来月から有償ごみ出し支援

モデル地区の青木平区で高齡化に対応し体制整備へ

富士宮市青木平区市シルバー人材センター(武井信夫区長)は5月1日から、「福祉家事支援サービスタウン」の一環として、青木平区をモデルに可燃ごみを戸別収集する仕組みについてワークショップや

富士宮市は、高齡者等が生活する上でのニーズと、それを支援する地域資源の創出などを協議する第1層協議会を組織し、生活支援体制整備を進めている。

同協議会は2021年度に高齡者のごみ出しプロジェクトの一環として、青木平区をモデルに可燃ごみを戸別収集する仕組みについてワークショップや

同区は市内でも高齡化が進んだ地域で、テストから得られた情報を基に、市シルバー人材センターによる有償のごみ出し支援サービスについて検討を行い、同区で初めて、新たなごみ出し支援サービスを5月3日から開始することになった。

具体的には、区と同センターが契約を行い、可燃ごみの戸別収集を実施。当初はテスト実施の協力者10〜15人をスタートし、利用者の取りまとめ、集金、支払いは同区が担う。毎週水曜日午前7時に同センター担当者が利用者の家の前から可燃ごみを回収し、同区の利用者は前日の火曜日か当日午前7時までに可燃ごみを分別し、所定の容器(ふた付きポリバケツ)へ入れる。料金は月880円の設定額制。年2回、指定

武井区長は「高齡化に対応した生活支援体制は持続可能な仕組みづくり。何でもボランティアに支えらる仕組みは不安定となり負担になる。行政と地域、事業者の役割分担の中で成り立つ仕組みが重要で、有償のごみ出し支

富士宮高校会議所 館にベビーカー寄贈者の貸し出しなどに



一の寄贈で礼状を受ける勝亦会頭(中央)

子育て中の人には必須のベビーカー。使われなくなった物は回収すると解体されゴミになることを知り、同会議所では使われなくなったベビーカーを譲り受け、メンテナンスしリユースする活動を2年前から始めた。持続可能な社会を目指し、自宅に眠っているベビーカーやチャイルドシートを回収し、再利用可能なベビーカーやチャイルドシートを貸し出す。同会議所の馬飼野朱

同日は、同館の佐野和宏館長や社会教育課のほか同会議所から勝亦会頭、坪井琥珀チーフ副会頭など10人ほどが出席。勝亦会頭らから佐野館長にベビーカーが渡されると、佐野館長から感謝の礼状が贈られた。



た富士宮高校会議所メンバーら

ミツバツツジの花が見頃迎え

村山浅間神社

国指定の史跡で世界文化遺産・富士山の構成資産の一つ、富士宮

援サービスは高齡化の進展する他地域のモデルケースとなる」と話している。